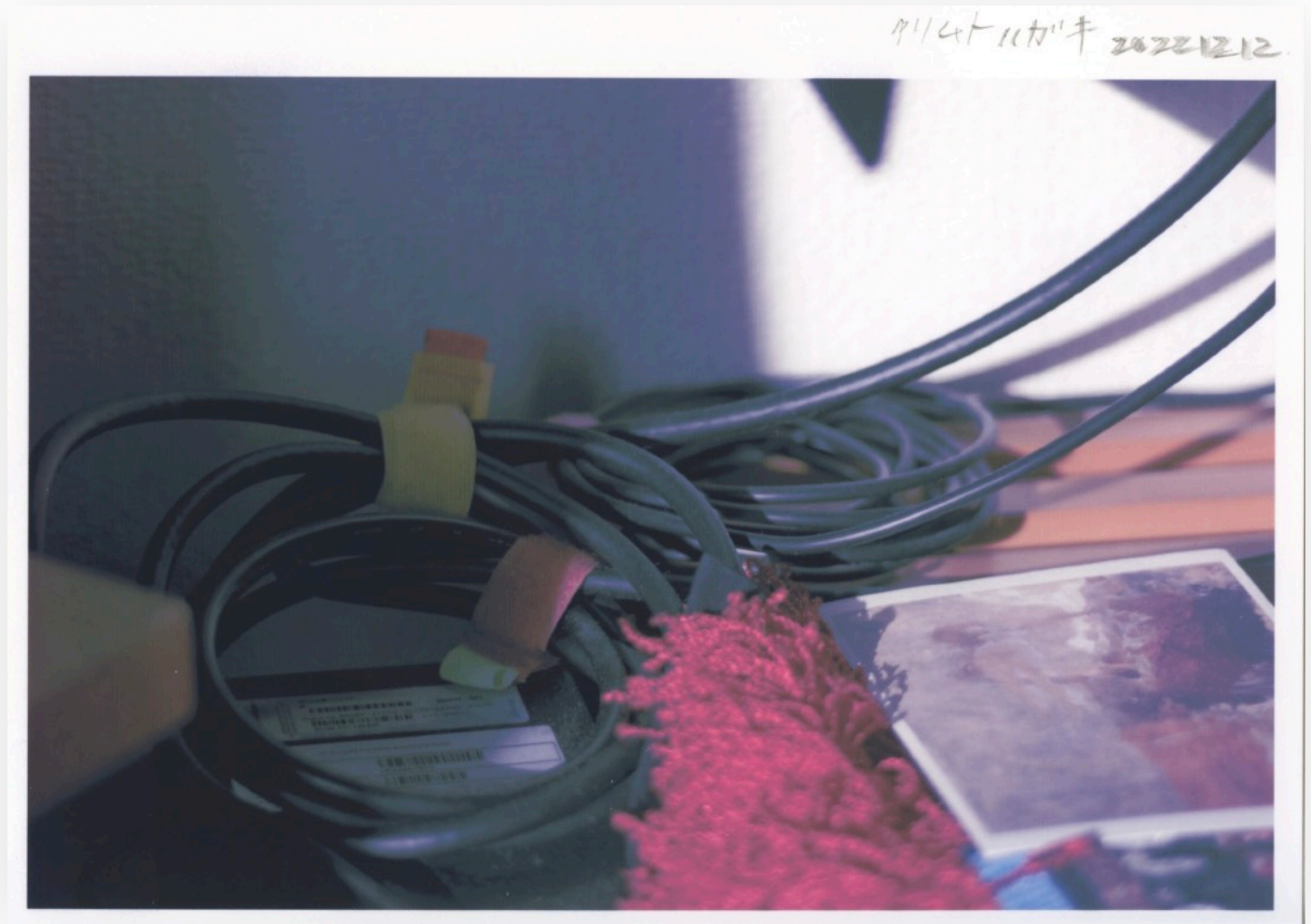


高橋恭司 / TAKAHASHI Kyoji

**Void**



華々しかりし90年代雑誌文化の時代において高橋恭司の写真は一際異彩を放ち、同時代と後続の写真家達に多くの影響を与え続けてきた。

高橋の写真は、写真であることを無自覚に受容しない。良い構図、正確なピントでシャッターを押すことが写真家の仕事なのではなく、写真(作品)として表れてくるものに表現が存在しなくてはならないことをいつでも自覚している。写真家だけではなく美術作家全てにとってこれは極めて当然のことだ。しかし、仮に表現というものに深みがあって、さらに作家によってその深度に差異があるのだと仮定すると、それぞれの作家は自分がどこまでの深さにまで至れば満足できるのかを問われているのだと言える。良い写真家とはその深みが真に深いという事実を知っており、それが鑑賞者の想像をはるかに超えた深さであることを伝えることができる写真を撮る。だからこそ、高橋の写真は雑誌であっても広告であっても、人々の目を捉え心までも掴む。

8x10のフィルム時代から一貫していることではあるが、高橋の写真作品はすべての過程において高橋自身の手が入る。撮影は無論のこと、引き伸ばし、現像、全てにおいて独自の手法がある。これも写真家であれば極めて普通のことだろう。しかし、一回性について思考する写真家がどれだけいるのだろうか。原理的には、フィルムが同じなら同じ写真が複製できる。しかし、原理的な可能性と、実現性は異なる。この世に同じものなど存在し得ない。写真から複製芸術であるという頸木を外した先には一回性への相転移が起きる。基本的に高橋の作品にはエディションが設けられていない。改造された装置と自作の暗室という不安定な制作環境では一度起きた現象に対して再現性に乏しいという事実もあるにはあるが、それ以上に高橋自身が写真の複製性についてを了解した上で意図してそれを忘却しているからだ。眼前の物質としての「写真」のみを見ている。写真にアウラを取り戻す。



本展「Void」においてはデジタルカメラで撮影した新作を発表する。高橋が日常的に愛用しているライカM8を使って、自室にいながらにして見える範囲を切り取ったプライベートな視点。プリンターの出力設定をマニュアルで調整し、アルシュ紙に浮かび上がった写真はRAWデータとは大きく異なっている。

淡く、しかし、はっきりと捉えられた事物が、やや均整を欠いた色バランスで紙に焼き付いている。眼前の事物それそのままを写し取るのではなく、ここにおける高橋の態度はむしろ絵に向かう画家のようだ。この新作シリーズで高橋の精神は、現実と離れすぎてしまう直前の場所に立って静かに張り詰めている。昨年9月の個展では、世界、高橋の目、カメラ、フィルム、印画紙、、、と転移するイメージを高橋の「写真」という現象の本質として捉え、それを「Ghost」と呼んだ。高橋の写真は降霊の媒体である。今回の新作は穴だろうと思った。高橋の身のうちにある大きな穴が、現実からたくさんのものを飲み込んで奪い去っていく。想像をはるかに超えて深い穴の中に、バラバラと抜け落ちていったものが残した虚な殻のような写真。

(KKAO 小林 健)

高橋恭司 / TAKAHASHI Kyoji

Void

2023.04.15 - 05.14 : closed on Monday, Tuesday and Wednesday

**ARTRO** : 556, Kaiya-ch0, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8126, JAPAN

Curated by KKAO Co., Ltd.



CD 2122 12.18





ほしのひかり 2022.12.29



新刊：Void

写真&テキスト：高橋恭司

デザイン&アートディレクション：Christophe Brunnquell (クリストフ・ブランケル)

プロデュース：小林 健 (KKAO株式会社)

編集：大城壮平 (POST-FAKE)

出版：Haden Books

刊行日：2023 4.15

サイズ：180 × 270 mm

ページ：50P

部数：500部限定 (プリント付特別版50部)

Void

現代文化圏をとりこみ1990年代において高橋基樹の写真は一躍異彩を放ち、同世代と後続の写真家達に多くの影響を与えてきた。

高橋の写真は、写真であることを無自覚に受容しない、良い構図、正確なピントでシャッターを押すことが写真家の仕事ではなく、写真として表れてくるものに表現が存在しなくてはならないことをいつも自覚している。写真家だけでなく美術作家全てにとってこの態度は極めて当然のことではある。しかし、仮に表現というものに深みがあって、さらに作家によってその深度に差があるのだと仮定すると、それぞれの作家は自分かどこまでの深さまで至れば満足できるのかを問われているのだと言える。良い写真家とはその深みが真に深いという事実を知っており、それが鑑賞者の想像をはるかに超えた深さであることを伝えることができる写真を撮る。だからこそ、高橋の写真は雑誌であっても広告であっても、人々の目を捉え心を掴む。

8x10のフィルム時代から一貫していることではあるが、高橋の写真作品はすべての過程において高橋自身の手が入る。撮影は無論のこと、引き伸ばし、現像、全てにおいて独自の手法がある。これも写真家であれば極めて普通なことだ。しかし、写真の持つ一回性について高橋ほど思考する写真家がどれだけのいるのだろうか。原理的には、フィルムが同じなら同じ写真が複製できる。しかし、原理的な可能性と、実現性は異なる。この世に同じものなど存在しない。写真が複製芸術であるという理本を外した先には一回性への相転移が起きる。基本的に高橋の作品にはエディションが設けられていない。改造された装置と自作の暗室という不安定な制作環境では一度起きた現象に対して再現性に乏しいという弊害もあるにはあるが、それ以上に高橋自身が写真の複製性についてを了解した上で意図してそれを忘却しているからだ。眼前の物質としての「写真」のみを見ている。写真にアウラを取り戻す。

本展「Void」においてはデジタルカメラで撮影した新作を発表する。高橋が日常的に愛用しているライカM8を使って、自室にいながらにして見える範囲を切り取ったプライベートな視点、プリンターの出力設定をマニュアルで調整し、アールシュペーパーに浮かび上がった写真はRAWデータで見るそれとは大きく異なっている。淡く、しかし、はっきりと捉えられた事物が、やや均整を欠いた色バランスで紙に焼き付いている。眼前の事物それそのままを写し取ったというよりは、まるで絵のような。この新作シリーズで高橋の精神は、現実と離れすぎた直前の場所に立って静かに張り詰めている。昨年9月の回顧展では、世界、高橋の目、カメラ、フィルム、写真、と転移するイメージを「Ghost」と呼んだ。写真は降雪の塵埃である。さしずめ、今回の新作は、ぼっかりとあいた穴のようなと思った。高橋の身のうちにある大きな穴が、現実からたくさんものを飲み込んで奪い去っていく。想像をはるかに超えた深い穴の中に、ハラハラと抜け落ちていったものが残した虚な抜け殻のような写真。

ARTRO

Void

In the 1990s, Kyoji Takahashi's photographs stood out from the crowd, and have continued to influence many photographers of the same era and those who followed. Takahashi does not unknowingly accept that his photographs are photographs. He is always aware that it is not the photographer's job to press the shutter button with good composition and accurate focus, but that expression must exist in what appears as a photograph. This is quite natural not only for photographers but also for all artists. However, if we assume that there is a depth of expression, and that the depth of expression varies from artist to artist, then each artist is asked only how far he or she is satisfied with the depth of his or her work. A good photographer knows the fact that the depth is truly deep, and takes photographs that can convey that the depth is far beyond the viewer's imagination. That is why Takahashi's photographs, whether in magazines or advertisements, catch people's eyes and capture their hearts as well. As has been the case since the days of 8x10 film, Takahashi's photographic work is handled by his own hands throughout the entire process. Not only shooting, but also enlarging, developing, and all other processes are done in his own unique way. This is quite normal for a photographer. However, I wonder how many photographers think about the one-time nature of their work. In principle, the same photograph can be duplicated if the film is the same. However, there is a difference between the principle possibility and the feasibility. There is no such thing as the same thing in this world. Once the jagular tree of reproductive art is removed, a phase transition to a one-time nature occurs. Basically, Takahashi's works are not editioned. This is partly because the unstable production environment of his modified equipment and self-made darkroom makes it difficult to reproduce a phenomenon once it has occurred, but more than that, it is because Takahashi himself is aware of the reproducibility of photography and intentionally forgets about it. He sees only the "photograph" as the material in front of his eyes. He is trying to restore the "aura" to the photograph. In this solo exhibition, "Void", Takahashi will present new works with a Leica M8, he captures a private scene within his own room. The output settings of the printer were adjusted manually by himself, and the photographs that printed on Arches paper were appeared in different way from the RAW data. The daily objects captured faintly but clearly are burned onto the paper with a color balance that is slightly out of the proper. In this new series, Takahashi's spirit is quietly tense, standing in a place just before becoming too far removed from reality. In his solo exhibition last September, we called the images that shift from one place to another such as the world of Takahashi's eyes, camera, film, and photographs "Ghost" in photography. Photography is a medium of search. Perhaps the new work is a hole. The deep hole in Takahashi's mind swallows many things from reality and takes them away. The photographs are like empty shells left behind by things that have fallen apart in the void.

K G +  
2200 0100 0110 0120 0130 0140 0150 0160 0170 0180 0190 0200 0210 0220 0230 0240 0250 0260 0270 0280 0290 0300 0310 0320 0330 0340 0350 0360 0370 0380 0390 0400 0410 0420 0430 0440 0450 0460 0470 0480 0490 0500 0510 0520 0530 0540 0550 0560 0570 0580 0590 0600 0610 0620 0630 0640 0650 0660 0670 0680 0690 0700 0710 0720 0730 0740 0750 0760 0770 0780 0790 0800 0810 0820 0830 0840 0850 0860 0870 0880 0890 0900 0910 0920 0930 0940 0950 0960 0970 0980 0990 1000  
ARTRO  
2007.09.18-19  
1001-1002  
1003-1004  
1005-1006  
1007-1008  
1009-1010  
1011-1012  
1013-1014  
1015-1016  
1017-1018  
1019-1020  
1021-1022  
1023-1024  
1025-1026  
1027-1028  
1029-1030  
1031-1032  
1033-1034  
1035-1036  
1037-1038  
1039-1040  
1041-1042  
1043-1044  
1045-1046  
1047-1048  
1049-1050  
1051-1052  
1053-1054  
1055-1056  
1057-1058  
1059-1060  
1061-1062  
1063-1064  
1065-1066  
1067-1068  
1069-1070  
1071-1072  
1073-1074  
1075-1076  
1077-1078  
1079-1080  
1081-1082  
1083-1084  
1085-1086  
1087-1088  
1089-1090  
1091-1092  
1093-1094  
1095-1096  
1097-1098  
1099-1100  
1101-1102  
1103-1104  
1105-1106  
1107-1108  
1109-1110  
1111-1112  
1113-1114  
1115-1116  
1117-1118  
1119-1120  
1121-1122  
1123-1124  
1125-1126  
1127-1128  
1129-1130  
1131-1132  
1133-1134  
1135-1136  
1137-1138  
1139-1140  
1141-1142  
1143-1144  
1145-1146  
1147-1148  
1149-1150  
1151-1152  
1153-1154  
1155-1156  
1157-1158  
1159-1160  
1161-1162  
1163-1164  
1165-1166  
1167-1168  
1169-1170  
1171-1172  
1173-1174  
1175-1176  
1177-1178  
1179-1180  
1181-1182  
1183-1184  
1185-1186  
1187-1188  
1189-1190  
1191-1192  
1193-1194  
1195-1196  
1197-1198  
1199-1200